

センター長ご挨拶

亀山市総合環境研究センター長 朴 恵淑



「亀山市総合環境研究センター」は、亀山市と市民、企業、NPO、大学との民官産学連携によって「世界一の環境先進亀山市」を創るべく、2005年1月に発足しました。亀山市の環境について考え、実践できる環境人材を育成すべく、「かめやま環境市民大学・大学院」が開設され、延べ730名を超える受講生が育ち、各種委員会の委員、NPO、地球温暖化防止活動推進員等環境関連分野で活躍しています。また、シャープ株式会社亀山環境安全推進センターとの協働による小中高校でのエネルギー環境教育出前講座や、手嶋龍一氏、新井満氏、大石芳野氏による特別講演会も開催し、毎回、約1,000名を超える市民が出席するなど、亀山市民の環境意識の向上に大きく寄与しました。「かめやま環境文化」と題した機関誌を毎年刊行し、環境活動に関する実績報告を行っています。

平成23年4月から、環境だけでなく、文化及び健康・福祉分野を含めた「かめやま市民大学キラリ」に発展させ、運営します。特に、環境分野においては、環境省が推進しているくらしのアドバイザー講座によってくらしのアドバイザーを育成し、市の環境フェアなどにおいてエコなくらしのアドバイスや提案を行っています。三重県地球温暖化防止活動推進センターとの連携により、くらしのアドバイザーを年間約100名ほど養成することを計画しています。文化分野においては、関宿を対象として、伝統文化の継承、ユニバサールデザインのまちづくり、文部科学省が推進している小中高校のユネスコスクールとの連携により、亀山市の全学校を対象とする企画を推進しています。健康・福祉分野においても健康生活へのアドバイス、超高齢化社会の楽しい生き方の提言などを行っています。

亀山市総合環境研究センターは、これまでのノウハウをフルに活かし、亀山市が名実共に世界一の環境先進都市、WHOの健康都市に加盟している亀山市の市民が長寿社会を健康に楽しく生きる政策提案、次世代を担う子供がユネスコ活動について理解し、関宿に代表される伝統の継承の軸として活躍できるツールとなります。

本活動報告書によって、これまでの活動の総括と共に、新しい「かめやま市民大学キラリ」の目指す方向について理解して頂き、より多くの亀山市民の協力を得るよい機会となることを切実に願っています。皆様と共に頑張ります！



亀山市総合環境研究センター

1. 設立意義

「亀山市総合環境研究センター」は、自治体（亀山市）・市民・企業・大学との民官産学連携により、地域の環境問題に対して地域に根ざしたニーズに取り組む、総合環境研究センターとして2005年1月に発足しました。

三重県は過去、四日市コンビナートの建設に伴う「四日市公害」により、自然破壊や市民への深刻な健康被害（喘息など）、環境対策へかかった莫大な費用などによって市民だけでなく、行政や企業までが苦しんだ辛い経験をしました。

公害発生から40年が過ぎた現在においても、「四日市公害」はまだまだ克服されていません。つまり、生き物へ恵みをもたらすべき自然は40年が過ぎた今も本来の自然に戻っていないのが現状で、今後、どのくらいの時間と技術、経費がかかるのかについては研究者でさえ分からないことが多く残されています。「四日市公害」の教訓は、環境問題が発生してから対策を講じることは手遅れであり、環境問題が発生する前からの「予防策」が何より有効な環境対策であることを認識することです。

私たちは、大量生産・消費・破棄といった20世紀型の文明観から、適正生産・最小消費・ごみゼロといった21世紀型文明観への素早い転換が求められています。

快適環境に対する住民の要求は多様化し、かつ高度なものになってきており、亀山市は、直面している環境問題に的確・迅速に対応していかなければなりません。

亀山市はこれからの20年間において、亀山市の総合的・有機的な環境政策のバックボーンを作る必要があり、「亀山市総合環境研究センター」は、このような諸過程を踏まえて時代を先取る有効な環境政策を立案し、自治体と企業・市民・大学教員との官学産民連携により、地域に根ざしたニーズに取り組むことを目的としています。

2. 構成

- ①センター長：朴恵淑（三重大学人文学部教授）
- ②副センター長：上野達彦（三重短期大学学長）
- ③運営委員：三重大学教員及び三重短期大学教員、亀山市環境森林部、企業、住民で構成
- ④事務局

3. 活動

①環境教育の拠点としての活動

感じる力・考える力・生きる力を高めるために、地域に根ざし、地域のニーズに答えるべく環境学習プログラムを企画し、子供や市民に学ぶ機会を提供します。

- 環境について学ぶ場を提供します。
- 環境について学ぶ機会を充実させます。
- 人材の育成・確保を行います。

②啓発・情報発信・人材バンクの拠点としての活動

亀山市の環境政策に関する、市民への積極的な広報活動を行います。亀山市環境基本計画や総合計画策定に至るプロセスにおいて、新聞、テレビ、ラジオ、ケーブルテレビなど各種メディアを活用する他に、「亀山市総合環境研究センター」の発信媒体として、活字、インターネット、DVDやビデオ、口コミなど情報発信において有効な諸手段を用いて、積極的に広報活動を行います。

③事業者との連携活動

様々なノウハウを持っている事業者との連携は、これからの亀山市の持続可能な発展にとって大変重要なテーマとなります。特に、「亀山市総合環境研究センター」は、最先端企業とのパイプ役割を担います。

④地域連携・国際交流活動

亀山市と地域の環境団体（NPO）や事業所、大学、諸研究機関との連携をはかり、ノウハウの共有や発展を図ります。また、近隣のアジア諸国と亀山市を結びつける活動を積極的に行います。

⑤亀山市のシンクタンクとしての活動

亀山市に根ざしたシンクタンクとして、様々な委託研究・共同研究を行い、亀山市の総合計画やまちづくりなどの企画や、地球温暖化対策、ごみゼロ・エミッションなどの環境政策に取り組みます。三重大学や三重短期大学の教員をベースとして人文社会や自然科学分野に至る幅広い諸問題に対応します。企業の地域社会への役割のあり方、住民への認知調査（アンケートや聞き取り調査など）などに取り組み、自治体と企業、環境団体（NPO）、市民と協働しながら、亀山市の発展に貢献していきます。